

「不撓の努力」

学校に勤めていて「教員で良かったなあ」と思うことに、色々な感動に出会えることがあります。今日は、今年度私が味わった感動の内の一つで皆さんが知らない場面を紹介します。

それは、1月13日(金)大学入試センター試験前日の、補習科生対象の**激励会の際の補習科生の顔つき**です。補習科と言ってもピンとこない人があるかもしれません。大学受験において志望する大学に現役では届かず、何とか自分の夢を実現したいと、捲土重来を期して受験勉強に打ち込むところ。全国的には予備校ですが、島根ではPTA立という形で5校に設置されています。4月の入学式の日には補習科の入科式もありますが、その時の少々不安そうな顔つきに比べ、一年経つこの日の顔つきには、何とか**突き抜けたような凛々しさ**を感じました。みんな、背筋をびしっと伸ばしてまっすぐ前を見つめ、落ち着いた姿勢で私の話を聞いていました。その**揺るぎない姿**に、私は圧倒されるような思いがしました。

そこには、一年間不安や焦りなどと戦いながら、それを乗り越え、これだけやりきったという思いが自信となって表れているように感じました。**最後に自分を支えてくれるのは、これだけやったという事実、自信しかないのだと改めて思いました。**あのときの緊張感は忘れられません。ああいう**出雲高校4年生の逞しい姿**を目にすることができたことは、私に**出雲高校生への信頼感**を増してくれました。**艱難汝を玉にす**。一年間の艱難が、彼らを玉にしてくれたと感じました。

「シンボウ」という言葉があります。漢字を思い浮かべてみて下さい。辛さを抱えて逃げ出さない「**辛抱**」。そんな辛抱を続ける中で、一本芯の通った揺るがない「**心棒**」がその人の内に備わっていく。そんな心棒の存在が感じられる人には、その人への周りからの信頼感、「**信望**」が生まれてくる。私は、この「**3つのシンボウ**」を補習科生に感じることをできたことを、いつか皆さんに伝えたいと思ってきました。

出雲高校での1年間、2年間で過ごし、君たちには楽しいことばかりではなく、しんどいこともたくさんあるのかなと思うけど、「3つのシンボウ」を大切にこれからを過ごして欲しいなと思います。

シンボウついでに、もう少し辛抱して話を聞いて下さい。皆さんは、甲子園初出場の記念事業として、本校の正面玄関横に建てられた記念碑を見ましたか。先ほど話した補習科生の一年の努力を思うと、この記念碑に書いてある文字が思われます。あそこに書いてある文字はなんと読むか分かっていますか？少し難しい漢字が使っていますが、「**ふとうのどりよく**」と読みます。「**不撓不屈**」の**不撓**です。苦しいこと困難にあってもひるまず挫けないというのが**不撓**です。野球部綱領として定められた言葉で、私が高校生の時にはすでに、グラウンドにこの文字が掲げられていたように記憶しています。「**不撓の努力**」。魅力的な言葉だと思います。野球部の創部以来68年に亘る**不撓の努力**が、今回の甲子園出場につながりました。

先ほど話した、辛さを抱えて逃げ出さない辛抱は、ただじっと耐えていることではありません。**不撓の努力を続ける辛抱**でなくてはなりません。努力は必ずしも成功という形で報われるとは限らないかもしれないけれど、努力を続けることは、その人の人間的成長のためにも大切なことだと思います。世の中がどんなに複雑になっても、これは変わらない真実だと思います。

私は、朝、**沢山の方々の思いに裏打ちされた記念碑の文字**を見ると、今日も頑張ろうという、引き締まった気分になります。**人は、何かの感動や誰かへの感謝を感じる時、頑張ろうという気持ちが増すものなのだと思います。**

来年度も、「**自立・協働・挑戦**」をモットーに前に進む出雲高校でありたいと思っています。気分も新たに新年度を迎えられるよう、**何かに取り組む春休み**を過ごして欲しいと願っています。

